

【事例6】特別支援教室（注意欠陥多動性障害）

学校・学年	中学校・第2学年
障害の種類・程度や状態等	注意欠陥多動性障害。注意力散漫で、授業に集中して取り組めない。スケジュールを覚えたり、持ち物を自分で管理したりすることが苦手。

学校生活支援シート（個別の教育支援計画）

1 学校生活への期待や成長への願い(こんな学校生活がしたい、こんな子供(大人)に育てほしい、など)

本人から	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい学校生活を送りたい。 ・仲の良い友人を作りたい。
保護者から	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や作文が苦手なので、自分に合った学び方を学習してほしい。 ・持ち物を忘れることが多いので、注意して話を聞けるようになってほしい。

2 現在のお子さんの様子(得意なこと・頑張っていること、不安なことなど)

<ul style="list-style-type: none"> ・好きなことや得意なことは、集中して最後まで取り組む。 ・苦手なことに対しては、集中が続かなかったり、取り組もうとしななかつたりして、勉強に集中できていない。 ・スケジュールや持ち物の管理ができず、忘れ物や提出物を期限内に提出できないことが多い。 ・心優しいところ、正義感の強い面がある。 ・仲のよい友達には、自分から積極的に話しかけてコミュニケーションをとろうとする。話をするとき近付きすぎたり、相手に触れて話したりすることがある。 ・将来は、絵を描く仕事に就きたい。
--

3 支援の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・自己を理解し、自分に合った学習方法や記憶の方法が身に付くようにする。 ・学習方法やスケジュール、持ち物の管理について、本人が意識して取り組めるようにする。 ・苦手なことにも支援を受け入れながら取り組めるようにする。 ・友達や教師との適切なパーソナルスペースが取れるようにする。 	
学校の指導・支援	家庭の支援
<ul style="list-style-type: none"> ・学習量を調整するなど、学習に対する苦手意識の軽減を図り、学習に対する意欲を高めて授業に参加できるようにする。 ・スケジュールや持ち物について、連絡帳への記入を確認するなど個別に言葉掛けをする。 ・適切なパーソナルスペースが意識できるように、具体的な言葉掛けをする。 ・肯定的な評価の言葉掛けを多くする。 ・家庭との連携を図り、共通理解をもって支援に当たる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年だより等から情報を把握し、予定や持ち物の管理について、必要に応じて声を掛ける。 ・できていること、がんばっていることを認め、褒めて伸ばす。 ・電話や連絡帳等で、学級担任、特別支援教室担任と連絡を取り、学校と家庭で連携しながら支援していく。

自立活動の「流れ図」

〔特別支援教室〕

学校・学年	〇〇中学校・第2学年
障害の種類・程度や状態等	注意欠陥多動性障害。注意力散漫で、授業に集中して取り組めない。スケジュールや持ち物等を自分で管理することが苦手。
事例の概要	自分に合った学習の仕方や記憶する方法、行動の切り替え方を身に付け、学習や生活における困難さの改善を図る指導事例

障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集

<障害の状態、発達や経験の程度>

- ・注意して聞き取ったり、集中して学習に取り組んだりすることが難しく、授業に集中できていない。
- ・聴覚による情報を記憶にとどめたり、覚えた情報を思い出ししたりする力が弱く、学習全般が苦手である。
- ・スケジュールや持ち物を自分で管理できず、忘れ物をしたり、身辺整理ができていなかったりする。
- ・読み書きのアセスメントでは、意味理解と空間認知に課題があることや不注意の課題があること、注意集中のアセスメントでは、聞いて覚えるよりも、見て覚える方が得意であることが分かっている。

<興味・関心>

- ・絵を描くこと、ものづくり

<学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題>

- ・視覚的な情報を手掛かりに覚えることはできるが、漢字など覚えても、思い出すことが難しい。
- ・注意散漫で、学習に集中できない。
- ・興味がない内容や、聞いているだけの授業だと集中が切れやすい。
- ・好きなことをしている時は、過集中になってなかなか切り替えられない。
- ・テスト等では、よく読まずに答えてしまいケアレスミスが多い。
- ・粗大運動は苦手である。
- ・他者のために役立ちたい、他者と関わりたいという気持ちがある。
- ・相手がどのように考えるか深読みしがちで、自分の本心はなかなか表に出さない。
- ・仲のよい友達には、自分から積極的に話しかけてコミュニケーションをとろうとする。

- 1 収集した情報()を「自立活動」の区分に即して整理する段階

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・提出物や持ち物の忘れ物が多い。 ・身辺整理が苦手。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情は低くないが、注意散漫な自分だと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と関わりたいという気持ちがある。 ・人の気持ちを深読みしがちで、本心は表に出さない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的な情報を手掛かりに覚えることができる。 ・集中のコントロールが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・粗大運動は苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲の良い友達には、自分からコミュニケーションをとる。

- 2 収集した情報()を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階

- ・勉強しなくてはいけないということがわかってはいても、集中力が続かない。
- ・ケアレスミスが多く、テストでは得点につながらない。
- ・忘れ物が多く、身の回りの整理整頓もできていない。
- ・なかなか本心を表に出さないが、親しい相手には、よく話すようになったり、身体接触があったりするなど、人との距離感を適切に取ることが難しい。
- ・忘れ物をしたり、授業中ぼんやりしたりして、叱られることが多い。失敗体験が重なると、学習や生活に対する意欲や自信がより低下することが考えられる。

- 3 収集した情報()を2年後の姿の観点から整理する段階

- ・得意なことを生かした学習の方法を身に付け、意欲をもって学習に取り組むことができる。
- ・学習面での成功体験を重ね、自信を付ける。
- ・好きなこと、苦手なことへの集中のコントロールをして、行動を切り替える方法を身に付ける

を基に - 1、 - 2、 - 3で整理した情報から課題を抽出する段階
<p>(学習面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味がない内容や、聞いているだけの授業だと集中が切れてしまうが、一方で、好きなことをしている時は、過集中になってなかなか切り替えられない。 ・記憶し続ける力が弱く、学習全般が苦手である。漢字などを覚えても、思い出すことが難しい。 ・テスト等では、よく読まずに答えてしまいケアレスミスが多い。 <p>(生活面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物が多く、身辺整理ができていないため、叱られることが多い。 <p>(自己理解・自己認識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意散漫である自己の特性を短所として自覚している。 ・失敗体験が重なると、学習や生活に対する意欲や自己肯定感が低下することが考えられる。

で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
<ul style="list-style-type: none"> ・集中のコントロールができるようにし、ケアレスミスなどを減らす自分に合った方法を身に付けることで、成功体験を重ね、学習意欲や自尊感情を高める。 ・自分に合った記憶の方法を身に付け、スケジュールや身の回りの管理ができるようになる。 ・自身の特性に関する客観的に捉え、支援を受け入れることや頼むことができるようになる。

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として	に基づき設定した指導目標を記す段階
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った学習の仕方や記憶方法を身に付け、学習や生活で実践できるようにする。 ・集中のコントロールができるようにし、学習に集中して取組めるようにする。 ・自身の特性に関する理解を深め、支援の依頼ができるようにする。

指導目標を達成するために必要な項目の選定	を達成するために必要な項目を選定する段階					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1)生活リズムや生活習慣に関すること (4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること	(3)環境による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。	(3)自己の理解と行動の調整に関すること	(2)感覚や認知の特性への対応に関すること		

項目と項目を関連付ける際のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った学習の仕方や記憶方法を身に付けるために、健(1)(4)、環(2)を関連付けて設定した具体的な指導内容が、アである。 ・集中のコントロールし、学習に集中して取組めるようにするために、心(3)、人(3)、環(2)を関連付けて設定した具体的な指導内容が、イである。 ・自己理解を深め、支援の依頼ができるようにするために、心(3)、人(3)を関連付けて設定した具体的な指導内容が、ウである。

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	具体的な指導内容を設定する段階		
	ア	イ	ウ
	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的な情報を手掛かりにした学習の方法や記憶の方法など、自分に合った方法が身に付くようにする。 ・学習場面や生活場面で、身に付けた方法を使えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間で活動を区切るなど、行動を切り替える方法を身に付ける。 ・内容を自分で選択できるようにし、苦手な学習にも、集中できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の長所と短所について考え、特性を客観的に捉えられるようにする。 ・困難を補うための支援を、依頼するための伝え方を考える。

個別指導計画

令和 年 月 日作成
作成者()

【通常の学級】

生徒名	2 年 ○組		
学校名	中学校	校長名	
年間目標	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して学習に取り組み、授業に意欲をもって参加できるようにする。 ・スケジュールや持ち物の管理を、意識してできるようにする。 ・相手との距離感を図り、適切なパーソナルスペースが取れる。 		

本人・保護者の願い

- (本人) ・楽しい学校生活を送りたい。
 ・仲の良い友人を作りたい。
 (保護者) ・漢字や作文が苦手なので、自分に合った学び方を学習してほしい。
 ・忘れ物が多いので、注意・集中力を高めてほしい。

生徒の実態及びこれまでの経過

- ・やりたいことには集中力できるが、苦手なことには消極的である。
- ・身の回りの整理やスケジュール管理ができず、未提出物が多い。
- ・取り組む前から諦めてしまい、学習に対する関心や意欲が低い。

連携外部機関

教育センター
○○病院

	指導目標	支援・手立て	指導の経過及び評価
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を受けて、授業に集中して参加できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間で活動を区切る。 ・題材を選ぶことができる活動に、得意なことを選択肢として設定する。 ・机間指導で、できていることを評価する言葉を掛ける。 ・特別支援教室で身に付けた学習方法等を、実践できるよう、特別支援教室と連携する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達同士で意見交換をしたり、班ごとに考えたりするなど、活動を区切って学習活動を進めたことで、集中して授業に参加できた。 ・集中が切れそうなタイミングで言葉を掛けることで、気持ちを切り替え、学習に集中できた。 ・特別支援教室で学んだ自分に合った学習方法を実践していた。
集団生活	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との適切なパーソナルスペースを保てるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級全体で、他者との適切な距離感について考える機会を設け、友達同士で意識し合えるようにする。 ・「腕を伸ばした距離」等の具体的な言葉掛けでイメージしやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との適切な距離感について、仲の良い友達からの言葉掛けを受けて、意識していた。 ・パーソナルスペースは、相手によって変わるということを理解することができた。
身辺自立	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物を減らそうと意識し、スケジュールや持ち物管理をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳の記入の確認を、個別に言葉掛けする。 ・持ち物に対する意識をもつために、メモカードを用意する。 ・学年だより等の行事予定を活用し、提出物や生活のスケジュールを一緒に確認する。 ・家庭との連携を図り、支援の方法等の共通理解をもって指導に当たる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳への記入、メモカードの活用には、言葉掛けがまだ必要だが、家庭の協力もあって、少しずつ忘れ物が減ってきた。 ・忘れ物がなかった日を連絡帳にチェックし、評価を記録した。 ・学年だより発行のタイミングで予定の確認をした。連絡帳の記入確認の際に、提出日等を再度確認した。

生徒の変容と引継ぎ事項

- ・授業への集中を促すために、動きのある活動や、活動を短く区切るという工夫は有効であった。
- ・得意なことを選択して学習したことは、集中して授業に取り組むことにつながった。
- ・具体的な言葉掛けや、授業の始めに学習の流れを提示するなどの視覚支援は、理解しやすかった。

【特別支援教室】

作成者()

生徒氏名		在籍	中学校 2年 組(担任:)
保護者の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や作文が苦手なので、自分に合った学び方を学習してほしい。 ・忘れ物が多いので、注意・集中力を高めてほしい。 		
長期目標(年間)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った学習の仕方や記憶方法を身に付け、学習や生活で実践できるようにする。 ・集中のコントロールができるようにし、学習に集中して取り組めるようにする。 ・自身の特性に関する理解を深め、支援の依頼ができるようにする。 		

通室回数・時数(略)

1学期

短期目標(学期)		
1学期	<p>自分に合った学習の方法や記憶する方法を知る。</p> <p>苦手な学習について、少しずつ集中できる時間をのばす</p> <p>自分の特性を知り、自己を肯定的に捉えられるようにする。</p>	
内容	手立て	指導の経過及び評価
<p>自分に合った学習の方法や記憶の方法が身に付くようにする。</p> <p>行動を切り替える方法を身に付け、苦手な学習にも、集中できる時間をのばす。</p> <p>自分の得意なことや苦手なことを知る</p>	<p>作文の学習では、挿絵のある教材を用いて、イメージもてるようにする。正しい漢字を電子辞書で調べられるようにする。短期記憶のトレーニングを取り入れる。</p> <p>事前に取り組む時間を設定し、行動を切り替えられるようにする。得意な分野と苦手な分野の学習を取り入れ、自分で内容を選択できる設定にする。</p> <p>自己理解に関するワークシートを用いた学習で、自分の得意なことや苦手なことが客観的に捉えられるようにする。</p>	<p>作文は、挿絵により想像力を膨らませ、起承転結の型に沿って書いた。漢字が分からないときは、自分から電子辞書を用いて調べて書き写した。短期記憶のトレーニングには、継続して取り組み、自分に合った記憶の方法を繰り返し行い、学習中は、覚えて書いたり、行動したりして成功体験を重ねた。</p> <p>事前に時間を設定して活動を区切るとともに、タイマーを使って音でも行動の切り替えを促した。学習内容を自分で選んだり、苦手なことが終わったら、得意な学習に取り組めるように設定したりして、苦手なことにも少しずつ集中できるようになってきた。</p> <p>長所と短所の学習では、見方を変えると、短所が長所にもなることを学んだ。小集団学習では、他者から見た自分の長所に気付くことができた。</p>
特別支援教室より		
<p>学期の始めは、興味・関心がもちにくい学習には、集中力を持続させることが難しく、一方で、自分の好きな学習には過集中になり、なかなか切り替えられなかったが、興味・関心が低い学習でも、テーマや内容を自分で選択できるようにしたことで、設定した時間内は集中して取り組めることも増えてきた。注意・集中のコントロールや、自分に合った学習方法、記憶の方法を身に付け、在籍学級でも実践できるように、引き続き取り組んでいく。</p>		

連携型個別指導計画

(1 学期)

学校・氏名	立 中学校 2年		
在籍学級担任	〇〇 〇〇	特別支援教室担当	〇〇 〇〇
記載者	〇〇〇〇、〇〇〇〇	作成日	令和 年7月 日

主な指導目標（長期目標）

在籍学級での目標
<ul style="list-style-type: none"> ・集中して学習に取り組み、授業に前向きな姿勢で参加できるようにする。 ・スケジュールや持ち物の管理を、意識してできるようにする
特別支援教室での目標
<p>自分に合った学習の仕方や記憶方法を身に付け、学習や生活で実践できるようにする。</p> <p>集中のコントロールができるようにし、学習に集中して取り組めるようにする。</p> <p>自身の特性に関する理解を深め、支援の依頼ができるようにする。</p>

主な指導目標に関する短期目標と手だて及び評価

在籍学級	
指導期間：令和 年 4 月～令和 年 7 月	
評価日：令和 年 7 月 日	
短期目標	<p>支援を受けて、授業に集中して参加できるようにする。</p> <p>忘れ物を減らそうと意識し、減らせるような取り組みを続ける。</p>
手だて	<p>短時間で活動を区切る。得意なことを選択肢として設定する。できていることを評価する言葉を掛ける。</p> <p>連絡帳の記入の確認をする。持ち物用のメモカードを用意する。学年だより等を活用し、提出物や生活のスケジュールを確認する。</p>
評価	<p>活動を区切って学習活動を進めたことで、集中して授業に参加できた。集中が切れそうなタイミングで言葉を掛けることで、気持ちを切り替え、学習に集中できた。特別支援教室で学んだ自分に合った学習方法を実践していた。</p> <p>連絡帳への記入には、言葉掛けがまだ必要だが、家庭の協力もあって、少しずつ忘れ物が減ってきた。学年だより発行のタイミングで予定の確認をした。連絡帳の記入確認の際に、提出日等を再度確認した。</p>

特別支援教室

指導期間：令和 年 4 月～令和 年 7 月	
評価日：令和 年 7 月 日	
短期目標	<p>自分に合った学習の方法や記憶する方法を知る。</p> <p>苦手な学習について、少しずつ集中できる時間をのばす</p> <p>自分の特性を知り、自己を肯定的に捉えられるようにする。</p>
手だて	<p>作文の学習では、挿絵のある教材を用いて、イメージもてるようにする。正しい漢字を電子辞書で調べられるようにする。短期記憶のトレーニングを取り入れる。</p> <p>事前に取り組む時間を設定し、行動を切り替えられるようにする。得意な分野と苦手な分野の学習を取り入れ、自分で内容を選択できる設定にする。</p> <p>自己理解に関するワークシートを用いた学習で、自分の得意なことや苦手なことが客観的に捉えられるようにする。</p>
評価	<p>作文は、挿絵により想像力を膨らませ、起承転結の型に沿って書いた。漢字が分からないときは、自分から電子辞書を用いて調べて書き写した。短期記憶のトレーニングには、継続して取り組み、自分に合った記憶の方法を繰り返し行った。</p> <p>事前に時間を設定して活動を区切るとともに、タイマーを使って音でも行動の切り替えを促した。学習内容を自分で選んだり、苦手なことが終わったら、得意な学習に取り組めるように設定したりして、苦手なことにも少しずつ集中できるようになってきた。</p> <p>長所と短所の学習では、見方を変えると、短所が長所にもなることを学んだ。小集団学習では、他者から見た自分の長所に気付くことができた。</p>

総合的な所見

<p>注意散漫や過集中にならないよう、本人の得意な課題の提示や、動きのある活動、活動を短く区切る工夫が有効である。自分に合った学習方法や記憶の方法、行動を切り替える方法を身に付け、自信をもって実践できるようにする。</p>
